

## 自民党として「政策大綱」「市町村要望」を提言！

「令和5年度政策大綱（392項目）」及び「令和5年度予算等に対する要望（市町村要望190項目）（議員要望50項目）」を大野知事に提出し、予算及び施策の編成に反映するよう申し入れを行いました。

予算については、引き続きコロナ対策、経済再生に向けた対策、災害に強いまちづくり、物価高騰対策を求めました。

**予算を地元で獲得する為、自民党内で白熱の議論が行われます！**

**当選回数は力です！毎度、議員が変わる地域では執行部から信用されません。**



## 自由民主党議員団 松井ひろし 埼玉県議会議員 **HIROSHI PRESS**



平素は私の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスも変異を続けていましたが、3年ぶりに行動制限のない年末年始を過ごすことができました。県民市民の笑顔こそが埼玉県の活力であり、市民生活の安定は「政治の責任」であります。

インフルエンザの同時流行も懸念されていますので、基本的な感染対策を怠らないように、十分注意してお過ごし頂ければと思います。

### 結果を出す政治

### 市民の安心と笑顔こそ



### 第2弾のポスターが完成しました！

大野元裕埼玉県知事・ほさかやすし代議士との強固な連携で「市民の笑顔」と「まちづくり」の為に活動していきます。

ご自宅・駐車場のフェンス等で、ポスターを設置できる場所がございましたら、ご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

※壁を汚さずに設置可能です。

※公職選挙法上、3月30日には撤去させていただきます。

※下記連絡先まで、お電話またはメールにて「ポスター設置について」とご連絡ください。



### 松井ひろし県政報告会のご案内

日にち：令和5年3月5日（日）  
 時間：午後4時より（3時30分受付開始）  
 場所：朝霞市コミュニティセンター 3階ホール（中央公民館内）  
 住所：朝霞市本町青葉台 1-7-1  
 参加費：無料

※電話・メール・FAX・事務所への御来所等で事前申し込みの御協力お願い致します

Instagram 活動報告配信中

### 地域経済を好循環へ！ 市民に寄り添った「まちづくり」

12月定例議会では「埼玉県一般会計補正予算（第5号）」を可決し、引き続きのエネルギー価格・物価高対策を続けていきます。

また、議員提出議案として県内で発生したインターネットカフェ個室立てこもり事件を受け、「埼玉県防犯のまちづくり推進条例の一部を改正する条例」を自民党県議団が提案し、全会一致にて可決・成立いたしました。



### 一般会計補正予算(第5号)

一般会計	歳入歳出予算	115,269.4万円
	(補正後累計)	2兆4,201億2,240万2千円
	債務負担行為	限度額 150億4,954万9千円
	繰越明許費	161億8,665万4千円

主な内容		
○エネルギー価格・物価高騰等の影響を受ける事業者・県民への緊急支援		46億2,684万7千円
○脱炭素社会に向けた省エネ・再エネ設備導入の促進		10億3,127万6千円
○森林管理道の冬期における通行確保		6,488万6千円
○公共事業等の施工時期の平準化・適正工期の確保	繰越明許費	142億2,719万9千円
	繰越明許費	146億8,307万8千円

本会議に於いて、この任期で最後の一般質問に立ちました。

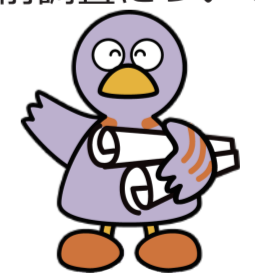
初当選以来、最大会派である自民党県議団に所属し、県内各地の諸課題を共有してきました。1人では解決できない課題も会派の課題として提起し、各議員が幅広い分野で質問及び提言を行っております。

地元の諸課題は当然のこと、国との連携、県内全体の課題など、7分野について質問させていただきました。



### 7つの質問

- ① 災害対策及び地元問題について
- ② 建築物等の解体等工事時における石綿（アスベスト）の事前調査について
- ③ 部活動の地域移行に向けた課題への取組について
- ④ 中小企業の障害者雇用について
- ⑤ 空き家対策について
- ⑥ 世界のSAITAMAプロジェクトについて
- ⑦ 和文化イベントの開催方法の工夫について



### 松井ひろし プロフィール

朝霞第七小・朝霞第二中出身。高校卒業後 家業を継ぐために専門学校を卒業。

彩夏祭実行委員長を始め地域ボランティアに力を注ぐ。

地域の発展には政治の決断が必要と考え、2019年埼玉県議会議員選挙に挑戦し初当選。

現在は警察危機管理防災委員会に所属し、災害対策に取り組む。

好きな食べ物「アジフライ定食」

発行：埼玉県議会自由民主党議員団

### 松井ひろし県政調査事務所

〒351-0011 朝霞市本町3-4-17  
 TEL:048-483-4256 FAX:048-483-4257  
 メール：info@matsuihiroshi.com

## 本会議にて提言「結果を出す政治」

## 市民目線で未来を見据えた「まちづくり」

### 部活動の地域移行に向けた課題への取組みについて（一部抜粋）

～私の思い～

部活動の仕組みが成り立たない状況にある中、国の有識者会議より、休日の部活動から段階的に地域移行していくことを内容とする提言が、政府に示されました。

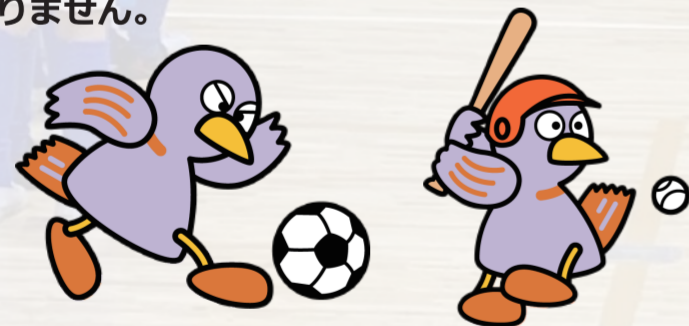
2023年度から3年間を改革集中期間として、早期の移行を目指すとしており、移行に伴う様々な課題を取り上げ、対応策が列挙されております。

しかし、**今後の中学校教育のあるべき姿や部活動の将来的な位置づけが明確になっていない**ため、市町村教育委員会はどのように取り組むべきか困惑している状況です。また、**保護者の方々の話を聞きますと、異なる学年と活動することで上下関係を学び、教員を身近に感じていたという親御さんもいました。今後について子供たちに話が出来ず、不安があるとの声が多いです。**

地域移行への課題は、**受け入れ先の整備や、指導者の確保、保護者負担、保険の在り方など多岐にわたっており、改革集中期間内に移行できるのか危惧しております。**

学校の働き方改革は不可欠だとは思いますが、**本来の目的は子供たちに継続してスポーツや文化・芸術に親しむことができる機会を確保することのはずです。**

地域移行に向けた検討の中で、**子供達が置き去りになって議論されているように感じてなりません。**



質問内容

- 1) 受け入れ団体等の確保は県としてどのように市町村を支援していくか。
- 2) 指導者の確保はどのように支援していくか。教員が指導を希望する場合は、引き続き指導できるような処遇環境も整備すべきだが。
- 3) 保護者の費用負担軽減に向けて県としてどのように取り組んでいくのか。

答弁

1) 指導を依頼できるスポーツ団体等がないとする市町村が2割程度あり、吹奏楽部等の文化部につきましても、十分な受け入れ体制とは言えないと声も伺っております。全県的なスポーツ・文化芸術団体への協力を要請するなど、受け入れ先となる団体等を確保できるよう支援してまいります。

2) 休日指導者は、地域の団体や民間クラブの指導者、大学生等が想定されており、各種関係団体等と連携し、市町村における指導者の確保が円滑に進むよう支援してまいります。教員が希望する場合には、市町村教育委員会から兼職兼業の許可を得ることで、指導にあたることを想定しております。

3) 生徒が休日の活動に参加する場合、保護者が謝金、施設使用料や用具費及び保険料などを負担することとなります。市町村に対して、公共施設の優先利用や、低額での利用を認めるよう働き掛けるとともに、国に対して、経済的に困窮する家庭に対する補助等の財政的支援を要望してまいります。

### 命を守る治水対策について（一部抜粋）

～私の思い～

下内間木地区は、1982年の洪水で甚大な被害が出ています。朝霞調節池整備事業は2008年に施設が完成し供用を開始しました。調節池で洪水を溜めたり、調節池下流の朝霞水門で洪水を逃がしたりしています。現在は、国が整備した朝霞調節池があり治水効果を発揮しているところではありますが、**豪雨のたびに道路冠水がまだ発生しています。新河岸川は、県でも朝霞水門から都境までの下流区間の改修を進め、下流に洪水が流れやすくしています。越戸川については、国道254号バイパスから新河岸川との合流点までの最下流の堤防等がまだ未整備であることも、浸水の原因ではないかと考えます。**

国道254号は、関越道と並行して県内を南北に縦貫する地域の人やモノの移動を支える大動脈であり、災害時において広域的な緊急輸送路としての重要な役割を担う道路でもあります。現在、第二期整備区間である国道463号から朝霞市内までの区間が整備中です。整備は着実に進んでいるのですが、周辺の道路は依然として混雑が頻繁におきています。**渋滞の解消だけでなく、防災機能の向上や沿道開発による地域の活性化のためにも、第二期整備区間全線の早期完成を強く望んでいます。**



質問内容

- 1) 新河岸川下流区間の事業進捗状況について。越戸川最下流部を親水公園のように整備することについて。
- 2) 254号バイパス第二期整備区間について。JR武蔵野線と交差する付近の雨水対策について。

答弁

1) 都県境から約1.5kmを重点的に整備しており、既に930mが完成し、現在は芝宮橋上流の70メートルの護岸工事を実施しています。残る未整備区間も用地取得に努め、順次工事を実施します。

越戸川の上流区間は、地域による定期的なイベントが開催されるなど賑わいの場となっております。最下流区間の整備でも、地元市等からの意向を確認しながら、水に親しめる良好な河川空間の創出ができるよう努めてまいります。

2) 第二期整備区間のうち、約1.4km区間について、令和5年春の開通を目指し、工事を進めています。県道朝霞藤線から県道さいたま東村山線までの約2.9km区間については、用地買収率が94%となっています。残る用地の取得に努め、軟弱地盤対策を行い、事業を推進してまいります。

JR武蔵野線とバイパスが交差する箇所は、旧河川敷であり、周辺の地盤に比べて低くなっています。そのため、大雨時にも交通の支障にならないよう、JR武蔵野線との交差構造の設計において、道路の雨水対策についても対応してまいります。

